

神戸大学ニュースネット  
**NEWS NET**

©神戸大学ニュースネット委員会 <http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html>  
関西学生報道連盟共同編集室 〒532-0011大阪府淀川区西中島3-21-9-502  
電話06-6307-1315 FA X06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com

白浜で合宿するなら  
現地サポートも万全!  
本紙のみの特約券あり!

**しらすな会**

TEL:0120-53-1662  
<http://www.shirasunakai.jp/>

1月号

今月の主な内容

- 2面: 総合文化
- 4面: 震災特集 2006
- 7面: 総合スポーツ

# 学内にアスベスト

## 分析調査で判明 神戸大 除去工事進める

神戸大は、学内で吹きつけアスベストが検出された箇所を除去工事を行っている。

アスベストの実態調査は昨年、大学が外部の試験機関に依頼して実施した。調査の結果、大学関連施設を含めた19カ所でアスベストが検出された。箇所は、いずれも天井や壁など。

大学は今年度の工事費として4000万円を投じて、特に安全性が心配される箇所でアスベストの除去等の処理を行っている。健康被害の心配が少ない、残りの箇所については「安定した状態だが、除去などの対策を講じるまでの間、適切な維持管理を行い、安全性が確認できない場合は使用禁止など適切な処置を行う」と(大学ホームページ)としている。アスベストの濃度

測定結果に基づき、順次対策を行う方針だ。施設課によると、全箇所の処置が完了するのは来年度9月だという。1月6日現在、来年度のアスベスト対策に充てられる予算は未定。

アスベストは、学生が日常的に利用する教室の一部でも発見されている。大学が対策に乗り出しているとはいえず、「教室で見つかると思わなかった」と(経営4年)「アスベストが



アスベストが発見された施設の一つ、文学部新館。(撮影=笹川和彦)

身近で見つかったという。びっくりした。(より多くの学生に知らせるため)掲示板でも頻りに調査状況を伝えてほしい(国文3年)との声が上がった。

大学は、試験機関の分析結果や対策方針についてホームページで公開している。HP (<http://www.kobe-u.ac.jp/info/departments/facilities/asbestos/index.htm>)

## 冬休み前に積雪 キャンパス、銀世界に

神戸市で今冬初めての積雪となった12月22日、冬休みの翌日に控えていた神戸大では、授業の休講が相次いだ。

同日午前中の激しい降雪により、道路の通行止めやバスの運休、列車ダイヤの乱れが発生。神戸大の最寄駅の阪急六甲駅では、大学に向かう市バスが一部の時間帯で運休。JR線では、駅のホームや車内でダイヤの回復を待つ学生の姿が目立った。

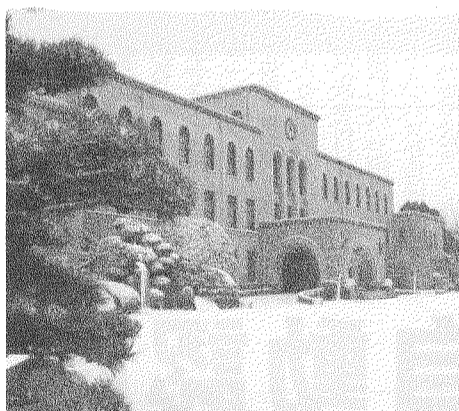
交通の乱れから、教員が担当科目を当日休講する事態も発生。教室には普段の半数以下の学生しか集まらず、授業の開始時間見送りや出席確認の取りやめといった特別措置がとられた。ある学生によれば、通常より早めに講義を終える科目もあったという。

全学共通科目の休講掲示板の前には、履修科目の日程を確認するために大勢の学生が集まった。

神戸市海洋気象台によると、12月としては88年ぶりに2センチ以上積もり、1916年の9センチに次ぐ二番目の記録となった。

強い風雪は、午後から小康状態に。六甲台キャンパスは一面銀世界となった。路面が滑りやすくなったため、バイクを押して通行する学生や、スノーチェーンを巻いて走行する乗用車が多く見られた。

六甲台キャンパスは、激しい降雪で一面銀世界となった。(12月22日 読者提供)



六甲台キャンパスは、激しい降雪で一面銀世界となった。(12月22日 読者提供)

久々の積雪からキャンパスでは、雪をまとった学生が目立った。一部の学生にとっては、思わぬ形で冬休みが前倒しとなった。

学生用端末が一新  
来年度からマックに  
神戸大の教育用端末が全面更新され、来年度から学生が使う全のパソコンがマッキントッシュとなる。

神戸大学術情報基盤センター(I-SITC)が06年度以降の新システムの詳細を発表した。

同センターでは移行作業中に一部のサービスを停止するため、利用者には「パスワードを確認する」「データのバックアップをとる」などの対応を要するよう指示が呼びかけられている。

**日経一週間お試し  
キャンペーン実施中。**

一歩先行く情報力  
日経読めば、就活だって  
しつかり情報収集できる!

日本経済新聞ご購読のお申込みは  
**ASA 高羽**  
0120-084013  
神戸市灘区土山町1-13

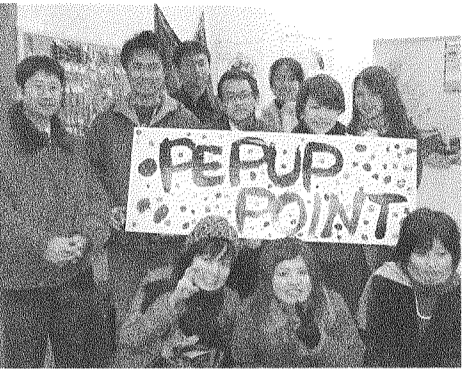
## 貿易で途上国支援 NGO団体「ペパップ」

### 地域に直輸入店

発展途上国との交流を通じて、国際協力活動を行うNGO団体「ペパップ」が12月17日、神戸市灘区の畑原市場にフェアトレードショップ「Pepup Point」をオープンした。同団体の神戸大生、関学生生ら約30人が中心となり、ドライマンゴーをはじめとするフィリピン産のお菓子や雑貨、衣料品などの輸入商品を販売している。

店内ではフェアトレード(公正な貿易)に関するパネル展示を行っている。「地域の中にフェアトレードへの意識を広げていきたい」と話すのは店長の綿貫カナさん(経済・3年)。

開店のきっかけは、瀬中央地区まつり協議会などの呼びかけだったと話す。「お店を開かないか」と(2005年)10月に



神戸大生が中心の「Pepup Point」店員ら。フェアトレードへの理解を地域に求める。(12月17日・畑原市場で 撮影=森田 篤)

打診された。11月に準備を始めてから急ピッチでここまで「と振り返る。飾り付けに使ったものは全て自分たちの手で仕入れた。これまで最も苦労したのはお店のレイアウト。」「どうやらお客さんが集まるのか。素人ながら周囲つくりのためにいろいろアイデアを出した」と話す。目標は、フェアトレードをはじめ国際協力への理解を広めること。「売り上げは大切。でもそれ以上に、地域の国際協力への理解が大事」と意気込む。メンバーは今後、国際協力への関心が少ない人たちの足を止めて乗せる店づくりを目指す。「まずはこの市場に学生が来てほしい。お店を通して地域のこと、国際協力のことを

考えのきっかけになれば」と綿貫さんは呼びかける。営業日は、月水土曜日。問い合わせは同ショップまで(電話078-818005-3446)。

**震災特集  
2006  
4面へ**

## 神戸大 閑話 ~其の二十七~

### 神大交流の広場

## クラブ同士の交流会



各クラブから36団体・150人が参加した神大交流の広場

「神大交流の広場」が12月14日、六甲台アカデミア食堂で行われ、学内の36団体・約150人が参加した。今回は「神大交流の広場」のサンタ、萌え「編」と題され、クリスマスツリーなどで飾られた会場で、普段あまり接することのないクラブ同士が親睦を深めた。

「神大交流の広場」は神戸大応援団総部が様々なクラブ・サークルに声をかけて行っているもので、今年度は9月に次いで2回目。立食パーティー形式の会場では、普段の活動内容などを話し合う姿が見られた。「いろんなクラブの人と交流を持つてもらおう」というコンセプトのもと、様々なゲームが用意された。まずは星座ごとに分かれて、2006年度運動部順位をあてるクイズ。その後も住んでいる地域や「クリスマスプレゼント」でグループ分けが行われ、参加した負けたチームは「尻字」の罰ゲームをするなど、会場は大いに盛り上がった。

最後に全員で学歌を斉唱し、中田安房団長(経営・4年)によるエールで会は終了した。親睦会を終えた中田団長は「これだけ(コンセプト)を具現化できたかわからないが、みんなが笑顔で帰ってくれてよかった」と話した。

伏流水

▽7年末年始  
祖父母に会うため関東まで足を運んだ。丸一年ぶりに再会したが、二人とも元気でどうもよかった。なかなかなかえなため、普段は手紙を送っている。聞けば、その一つ一つ封筒まで丁寧に残しているのだという。祖母の喜ぶ姿を見て、家族の大切さを改めて感じた。去年は、学生が関わる事件・事故が相次いだ。尼崎のJR脱線事故では、多くの学生が命を落とした。また、塾講師の学生が教鞭を殺す痛ましい事件が発生した。いつか世間から忘れたとしても、遺族の心は決して癒えない。自分を含め、メディアの多くが遺族をはじめ、取材される側の気持ちを汲み取れない気がする。一方で「メディアがなければ世間はその気持ちを読めることはできない」とも聞く。人に伝えることも難しい部分だが、家族の大切さは誰にでも共通するものだと思う。メディアは、事件や事故を扱うとき、常に家族を扱った人の立場を考慮する必要があると感じた。文章の言葉一つで相手を怒らせ、傷つけるかもしれないが、もし何か学べるなら、これからの相手の許す範囲で多くの話を聞いてみたい。家族の大切さを実感して、そう思った。

【森田 篤】

# 震災特集

## あれから11年

### 大学からできること

阪神・淡路大震災から11年。神戸の街は、かつての「被災地」から、震災で得た教訓を「発信する街」へと変化を遂げている。しかし、世界では依然として大地震で多くの命が奪われ、日本でも建物の耐震偽造が発覚。神戸からのメッセージは浸透していない、と言っても過言ではない。

11年前、震災の影響を大きく受けた3大学(神戸大、関学、神女院大)でも、現在多くの取り組みが為されている。被災地の大学だからこそ今できることは一体何なのか。そしてこれから、震災で得た教訓をどう「発信」していくべきなのか。

今年、震災取材班は3大学の「防災」に注目し、それぞれの大学の取り組みを調査した。また、関学災害復興制度研究所で復興支援の制度づくりを進める同研究所の主任研究員、山中茂樹教授に話を聞いた。



## 神戸大

海事科学部(旧神戸商船大)関係者を含め、44人が犠牲となった神戸大。震災当時、大学の体育館は被災者のための避難所として活用された。あれから11年、大学は震災の教訓をどのように生かしているのだろうか。

医学、土木工学、社会科学など多方面から研究を進める同大学は、阪神・淡路大震災で得た教訓を国内外で還元している。昨年1月には、スマートフォン地震の被災地インドネシアに医学部の医師を派遣し、復興活動に貢献した。

## 関学

阪神・淡路大震災が起きた1月17日、大学は学生・教職員の安全確認の把握に緊急を要した。電話がつかない中、安全確認は困難を極めた。各学部の事務室に在学生名簿を置き、通学してきた学生からの情報で安全確認を行っていた。

また、関学に学生の安全を尋ねる問い合わせが多く寄せられていたが、情報が錯綜し、回答までにかかりの時間がかかった。そのため、安全確認のスピード化と受

災地インドネシアに医学部の医師を派遣し、復興活動に貢献した。

新年度は、新たな取り組みとして全国の大学で初めて、学部を横断した災害援助組織を設ける。この組織は、神戸大が震災を教訓に設立した「都市安全研究センター」内に設置される。同センターによる、大きな災害が起こった場合には、被災地に向かいどのような援助が可能なかの調査。専門家らが、それまでの研究結果をもとに復興のノウハウを伝える。

阪神・淡路大震災では学

け取った情報をまとめ、いち早く情報を発信できる新しい仕組みが必要となった。

そんな中で誕生したのが「安全確認システム」だ。このシステムは1996年度に開発され、関学HPの「災害時のページ」からアクセスできる。2003年には震災時の対応法、避難所の案内などのコンテンツが追加された。使い方は、関学HPのトップページから災害時のページへと進む。「安全確認フォーム」を選択する。フォームに必要事項を記入の上、氏名

## 神女院大

神女院大のキャンパスは1933年に建てられたものをそのまま使用している。そのため、1981年に新たに定められた新耐震基準に満たない建物には、随時壁の補強を行っている。これまでは廊下のコンクリート壁と柱が一体になっていたため、地震が起きた際には重心が柱にかかり、建物が崩れやすくなっていた。そこで壁と柱を分離することで柱にかか

る負担を軽減する等の工夫も為されている。学内にいる際は現在、鉄筋コンクリートで免震構造の建物になっている。また、火事を起さないよう1日ヒーターを採用している。寮監はいつでも寮生に連絡がつくように携帯電話を把握している。

また、「震災の記録」という本を震災発生からちょうど1年後の1月17日に発行。震災発生後約1年間の大学の組織全体の動きをまとめ、緊急事態におけるリスクマネジメント(危機管

内の施設棟が中破。被災後に建て直しを行い、施設の改修を進めた。学内の施設では、1980年以降に建てられたものは、全て耐震基準を満たしている。

1万7000人以上の学生(2005年度現在)を擁するため、全学的な避難訓練を行うことは難しい。同大学は、施設の耐震化と合わせ、学生全員に防災マニュアルを周知させることで、万一の事態に備える。

一方、神戸大の学生寮は、国庫寮と住吉寮(国際学生寮以外)で現行の耐震基準を満たしていないこ

と所属は災害時にHP上に公開してもよいのかどうかの選択をする。公開を選択した場合は、大学側が情報の信頼性を確かめた後に公開。「災害が起きずに使用する機会がないほうが幸せだが、もし起きたときに1人でも多くの人の手助けとなるようなページをつくってきたい」と、HP制作担当の金本さんは話す。

学内の施設は、国が定める耐震基準より高い耐震処置を施している。耐震対策は震災以前から行なわれていて、新しい建物を建てる際、設計書は大学・設計事

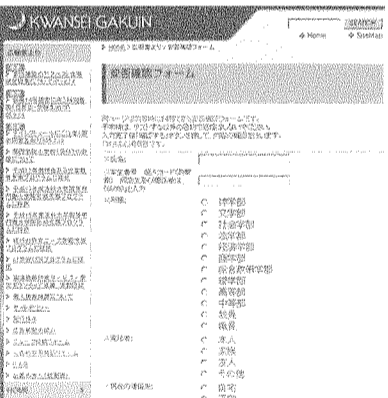
理を書き残した。以後何らかの災害・緊急事態が起きたとき、前例をもとに対応できるように作られた。執筆したのは、学長・事務長・教務部長ら約40人の当

時の教職員。それぞれが各セクションを代表し、被害の状況・どのように復興したかなどを詳細に記している。教職員が気づいた、施設・設備面や事務分掌の



学内に新たに設置された消火栓。山火事対策に役立てられる。

同大学ならではの防災対策もある。キャンパスが山中にあるため、山火事対策として消化栓が設けられた。また、不審者が学内へ進入しないよう24時間体制で警備員を配備し、各門には監視カメラを設置している。



関学HP上にある安全確認システムのフォーム。氏名や学部を記入すると、安否を学校側に報告できる。

務所・ゼネコンの3つの機関による検査を経て初めて施工に移されるなどの決まりがある。特に建物の要となる鉄筋においては整合が正しいか、な階層ごとに検査を行う。

周到な耐震対策を取っている同大学だが、経年劣化の問題は否めない。既に建てられた施設の検査も実施され、施設課の各セクションの専門家が適時に点検・検査をしている。

とかわかった。震災で大きな被害はなかったものの、寮生には施設の安全性に不安が残る。住吉寮国際学生寮(発



神戸大は、新入生に配布する「学生生活案内」で、災害時の迅速な対応をよびかける。

## 関学災害復興制度研究所 山中茂樹教授

### 生活・地域に根差した復興支援の「制度」を

関学は震災10年を迎えた2005年1月17日、災害に遭った人々の生活や地域の「復興」を支援する「制度」を研究対象とする「災害復興制度研究所」を新設した。開設から1年、同研究所主任研究員の山中茂樹教授に話を聞いた。

被災地西宮に本拠をもち、学生・教職員28人が犠牲になった大学として、大災害後に待ち受ける被災者の生活と地域の復興という公的課題に貢献したい、という思いからです。

「災害大国」「地震列島」といわれる日本では、自然災害で被災した場合、自力復興が原則です。私たちは災害に遭った人々の生活や地域の「復興」を支援する制度を研究対象にしています。しかし、復興の定義は人それぞれによって違うものです。例えば、福岡西方沖地震で被災された女界島の人に、どういった状態が復興かと尋ねると、こうおっしゃいました。「あの山に斜面に地震の前と同じように灯がつかない」と。戦後の成長社会で作られた現行の災害法は被災者の応急救助や道路・橋などのインフラ復旧を主眼としていて、人々の生活や地域の長期にわたる「復興」に正面から取り組んでいない。研究所では、被災状態と現行の復興制度について研究をし2010年をめどに人々の生活や地域の視点に立った「災害復興基本法」の提案を目指します。

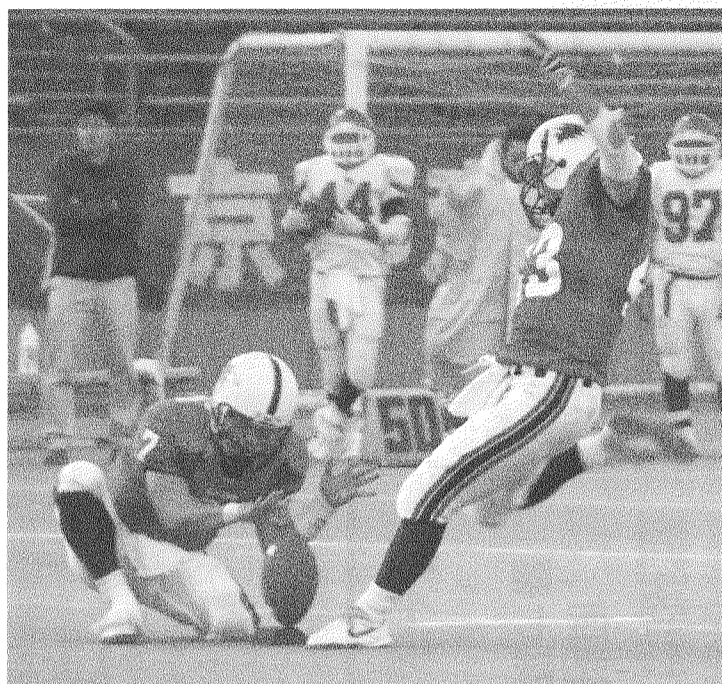


災害復興制度研究所主任研究員の山中茂樹教授

編集を終えて  
1995年1月17日から11年が経過し、人々からは震災の記憶が薄れつつあります。しかし、被災地の3大学では震災で得たことを、これからの防災に役立てようとしています。天災は、いつ私たちに襲いかかりませぬ。その「もしも」の時、被害を最小限に留められるように、これからは私たちも個々で防災意識を持つべきではないでしょうか。かつての「被災地」神戸から「発信」されているメッセージを、この特集から読み取って頂けると幸いです。

# 残り1秒、劇的FG

## 17点差巻き返す アメフット 入替戦に勝利



試合時間残り1秒、決勝のFGを決めるK三輪 (12月10日・長居球技場で撮影=武井礼美)

関西学生アメフットリーグの1部、2部入替戦が12月10日に長居球技場で行われた。京産大と対戦した神戸大は前半0-17と瀬戸際に立たされるも、試合時間残り1秒でK三輪がFGを決めて逆転。20-17で1部残留を決めた。

神戸大は前半0-17と瀬戸際に立たされるも、試合時間残り1秒でK三輪がFGを決めて逆転。20-17で1部残留を決めた。

折り返す。後半に巻き返す。神戸大は開始1分、RB中井の72ヤード独走TDで6点を獲得。K三輪のTFPは失敗するものの、神戸大は活気づく。

### 男子 バレーボール

## 一部に返り咲き 連敗からの勝利

関西学生バレーボールリーグ男子の入替戦が11月26日、浜寺公園で行われた。大院大と対戦した神戸大は、接戦を8-5で制し1部リーグ復帰を決めた。今回の昇格により、来年度のリーグ入りは男女揃って1部リーグ出場となる。

前半の有利に展開したのは神戸大。第1Q、A.T島井のシュートで先制、直後に同点となるが、M.F島田の活躍で2-1に。第2QはA.T島崎、中島の連続得点で大院大との点差を

引き離した。後半は大院大が粘りを見せる。第3Q、3点を返された神戸大は、なかなか追加点を奪えない。第4Qでは、1点が試合を左右する展開となったが、安定したパス回しや、中島の連続ゴールなどで神戸大が流れを引き寄せた。最後は8-5で試合終了し、1部復帰が確定。チーム全員がグラウンドに集まり、喜びを爆発させた。

この日の入替戦で、4年生は引退を迎える。「今日勝つのは、下級生の活躍のおかげ。来年からは下の代が中心になって、今より強いチームを作ってくれると思う」と(田中主将)、「4回が下級生をよく育ててくれた。来年からは彼ら新しいチームの活躍に期待したい」と(辻本顧問)。



3得点を記録し、勝利に貢献したA.T中島(中央) (11月26日・長居球技場で撮影=森田 篤)

## 自由劇場 会場に一体感 白とベージュに彩られ



戯曲の真偽が疑われた主人公ウィル(右から2番目) (12月8日・六甲台講堂で撮影=大野将寛)

神戸大自由劇場の「SHAKESPEARE」が12月8日から11日まで、神戸大六甲台講堂で行われた。シェイクスピアの戯曲をめぐる人間模様、そして劇中に観客はめ込まれた。舞台は1798年イギリス。ある日、法律事務所でのシェイクスピアの幻の戯曲が発見されたというのである。シェイクスピアの新発見の戯曲をめぐって、国が揺れる。

「役者と観客の壁をなくし、会場を一体にしたかった」と演出のなごみ(みさき)が語る。観客は舞台下も使って演技し、観客自身も18世紀の劇場にいるかのような感覚を覚える。なごみ(みさき)さん(2年)が「夢を見ていたような感覚」が大好きという。

寒さが身に沁みるこの季節。来場した観客には、おまけとして手渡された、公演後にはあたたかいスープと観客への心使いも忘れぬ。

三商大戦閉幕  
神戸大が24連覇  
第45回三商大戦閉幕式が(旧三商大戦)の閉会式が12月9日、一橋大で行われた。神戸大は27種目中、13種目で優勝した神戸大が24連覇を飾った。2位は一橋大、3位は大阪市大。

## 定演 フラッシュ

神戸大混声合唱団アポロンの第43回定期演奏会が新しくつたために、12月4日、神戸文化ホールで行われた。男声と女声がおどろく美しい歌声に会場は観客は酔いした。「1年間やってきたことを目に見る形にできた」と部長の篠原俊明さん(経営・4年)が行われた。

エルデ  
神戸大混声合唱団エルの第42回定期演奏会が12月13日、神戸文化ホールで行われた。男声と女声による見事なハーモニーが観客の胸に響いた。また恒例のオリジナルも行われた。

交響楽団  
神戸大交響楽団第55回定期演奏会が12月26日、神戸国際会館で開かれた。1200人以上の観客はその美しい音色に耳を傾けた。

邦楽部  
邦楽部第33回定期演奏会が12月17日、尼崎ヒッコロ

交響楽団の定期演奏会には1200人以上が訪れた。



**お知らせ**

# 10th

## ニュースネット委員会

### 今年で創部10周年!

NEWS NET

阪神大震災をきっかけに、情報を伝える大切さを痛感した私たちは95年、ニュースネット委員会を設立しました。大学のニュースを伝え続けて10年。これからも新聞、インターネットでニュースをいち早くお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、ニュースネット委員会では  
随時編集部員を募集中!! 詳しくはホームページまで。

<http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html>

# 中国料理 青虎

## 自慢の手作り。

ミネラルたっぷり、海の味・風の味・自然な味、完全天日塩を使った中国料理。学生に手頃な値段のメニューも揃えています。テイクアウトもOK。

←色とりどりの手作り肉まん1個 80円。(人参、古代の黒米、紫芋、イカスミ...他10種類。)

白黒ゴメン

→餃子(8個)300円。人気メニューの一つ。

営業時間/11:30~14:30 16:30~22:00  
不定休 TEL 078-854-0485

△カラアゲ定食(780円)。からあげ、野菜炒め、玉子焼き、焼豚などが一つのお皿に。香ばしい香りが食欲をそそる。

JR六甲道  
青虎 TOHO  
JR六甲道駅より徒歩2分